

## 平成31年度第1回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成31年4月26日（金） 午後3時20分～午後4時40分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 粉川一郎委員長、椎名武博委員、大和正明委員、安倉史典委員、林典子委員、矢野真理委員、桑田佳雄委員、志村はるみ委員、坂本富彦委員、足立秀一委員、樋口祥明委員、（以上11名）
4. 事務局 市民活動推進課 佐瀬課長、金井係長、櫻井
5. 傍聴者 2名（定員5名）
6. 会議内容
  - 1 開会
  - 2 職員等紹介
  - 3 議題
    - （1）企画提案型協働事業（平成30年度実施分）の評価について
    - （2）平成31年度企画提案型協働事業実施要領について
    - （3）その他
  - 4 その他
  - 5 閉会

### 7. 会議要旨

#### 3 議題

（1）企画提案型協働事業（平成30年度実施分）の評価について

#### 《事務局報告》

資料1-1～1-4：アリプロ以外は、担当課と団体の評価に乖離なし。

道作古墳群歴史広場維持管理、アリプロ、木下地区歴史講座は終了。

道作古墳群歴史広場維持管理と木下地区歴史講座について、企画提案型協働事業の3年目を終了、平成31年度は、担当課と団体で直接協働し事業を行う。

資料1-5～1-8：木下街道膝栗毛は終了。残りは、平成31年度企画提案型協働事業継続。

#### 《議長進行》

・資料1-1～1-4について、委員の意見等を伺いたい。

#### 《委員意見等》

・全体を通して、担当課のスタンスが、以前は評価する立場であったが、今回はパートナーとしての同等の立場で臨んでいたのがよかった。

→担当課の協働事業への向き合い方として、成果報告会に同席し、一緒に審査されることにより意識が変わると考える。市活は担当課と会の間で立ってコーディネートすることもあるが、一緒にやっていくという意識が以前より強くなっている。（事務局）

・アリプロについて、担当課と団体とで意見の乖離があるが、普段から歩行習慣がない人には難しい

課題で、大規模で行うのも困難、理解が必要な二年目に関しては工夫している様子は見えるが、市の評価では「地域課題を把握し改善に向けた取り組みをしていない」、「PDCA サイクルを用いていない」とあるが、結構厳しい評価のように思えるが、どうして乖離しているのか。

→担当課と団体と当課で、三者で話し合いを行っていましたが、担当課から「審査の段階で、団体の力量見るべき」という意見がでた、団体間の連絡（先生、アシスタント）がうまく連絡、情報共有がうまくできなかったこと等が原因であると考えている。ただし、団体の力量を審査の時点で見極めるのは難しいし、そもそも力量を見極めることではなく、いかに協働事業を成立させていくということ、担当課と本当にできるのか協議していくことが重要であり、審査イコール協働事業成立ではないと考える。今後の課題として、より三者協議で議論しながら今回のようなことがないよう注視していきたい。（事務局）

・アリプロ、提案する前に活動実績はあったのか。

→あった。協働事業について、事務局は失敗という認識ではない。必ずしもうまくいかない、こういうこともありうるのだと考えている。担当課と団体のマッチングにも注視していく。（事務局）

・費用の返金はあるのか。

→実績に対する支出であり、目標値に達しなかった場合の余剰分は清算する。市（担当課）と団体は委託契約を締結する。（事務局）

・決して失敗とは思はない。健康、ゼロ次予防が大事という中で、市民の意識づけの一端を担うというのが目標である。全くできなかったという評価だが、到達すべき目標がどこなのかという初期段階の目標設定に問題があったのではないかという意見です。

・去年から見てきて、市と団体の連携が取れてきている、立てた計画をほぼ 100%でできていて、品質が上がってきている。アリプロに関しては、市民活動やるうえで現実的に計画を見直すというのはあること、できた、失敗したという議論ではない。市民活動の趣旨を担当課にもっと丁寧に伝えるべき。政策と合う合わないはありえるが、できませんでしたでは、そもそもの趣旨に相違があるのではないか。できた、できなかった中でも課題を見えるようにするとよいと思う。

→評価項目については委員皆様の意見を伺いながらよりよい評価指標になるよう改善していきたい。（事務局）

・アリプロについて、前回も議論し、文面では厳しい評価も多いが、団体も担当課も良い経験を得ることができたという評価していると思う。（粉川委員長）

・アリプロに対し厳しい評価がいかなるものかという意見があったが、成果評価とプロセス評価は別である。成果評価としてはこれでいいと思うし、一方でプロセスにおいても得るものがあった。それもまた評価すべきこと。

・竹袋調整池は、良い成果が出ていると評価できる。（粉川委員長）

《議長進行》

・アリプロについては、成果として達成できなかった部分はあったけれども、団体側も行政側も得るものがあった評価します。

・資料 1-5～1-8 について、一つずつ順に、委員の意見等を伺いたい。

《委員意見等》

【資料 1-5】印西防災研究会

・一年間の中で計画実行、新たな課題を次年度に生かしていくことがすごいと思った。ぜひ今後も続

けて行ってほしいと思った。

- ・自主防災組織は、結局が増えた、増えていないのか。  
→増えてはいないようです。市民に興味はあるが、組織を立ち上げるとなると維持管理への負担から一歩引いてしまうところがある。町内会等での後継者不足等の課題もあります。農村部や集合住宅地等、地域により考え方が違うのはあります。(事務局)
- ・歴史、環境が多いが、防災に目をつけるという着眼点は令和の時代に向けて大事。短い期間では成果が出にくい取り組みなのかと思う。防災マニュアル等の普及は時間をかけてやっていかないといけないし、行政のテコ入れも必要。令和の時代には必要で、地域に根付いてほしい。
- ・地元の大森地区で防災会の幹事をやっているが、なぜ浸透しないのか、大体のところは町内会と防災会でやる人間同じ。一年で人が変わるのでノウハウの蓄積ができない。町内会役員等もただでさえ引き受けたくないのに防災会もとなると負担も多い。そこで大森では町内会と防災会で組織を分けた。町内会の役員のOBが防災会の役員をやるというルールづくりをした。特定の人に負担をかけるのではなく、より多くの人にやってもらう。この活動は、認知度の向上に効果はあったと思うし、一歩踏み出すためにもつづけていくべきである。  
→啓発の活動、市の職員が各地区を回って説明をしに行くのは非常に難しい。そこで団体の方々と職員と一緒に、地域に行って啓発をする。数年後に花開くというビジョンを防災課が描けるように相談しながらやっていきたい。(事務局)
- ・高評価な結果であった。今後は数値で実績を提示していただけると、より参加者にわかりやすい発表になるのではないかと。(粉川委員長)

#### 【資料1-6】里地里山保全ネット

- ・イノシシは最近大森地区でも出ている。若干気になるのは、竹を伐採したというが、根を取らないと、イノシシの餌となる筍が、より生えてくるのではないかと。
- ・もともと印旛地域で被害が多く、荒れた土地がニュータウン地区のすぐに迫っており、イノシシが住み着いている。なぜ伐根しないかという点、斜面という地形だから。また、地表から出た筍をイノシシは食べないので、伐採を行っている。さらに、竹の管理について土地の所有者が自分たちだけでは管理しきれない部分があった。地域で力を合わせてやっていただいたほうがありがたいという声があったと聞いている。(事務局)
- ・土地所有者が異なることから、おそらく行政単独でも、市民団体単独でも手を付けるのは難しかった事業であり、協働事業として適切な内容であった。(粉川委員長)

#### 【資料1-7】谷田武西の原っぱと森の会

- ・担当課と団体で、話し合いの記録のとり方と成果の評価で乖離があるがこれはなにか。  
→記録のとり方では、全ては確認できていないですが、世間話的な内容、わかりきっている内容だったのであえて記録を取らないこともあったと聞いている。(事務局)
- 成果については、事業を行っている場所において、まだどのくらい、どこまで人を入れたらよいか、どのように自然環境を維持していくのかを調査している段階。広く市民と共有する段階には来ていないので評価が異なると考える。HPや団子祭りで、活動内容を公表してきた。  
→担当課としては、何を発信するかまだ発表できる段階に来ていないということで、大きな齟齬があ

るわけではなく、政策形成を一緒にやっていく。(粉川委員)

【資料1-8】木下街道膝栗毛

- ・ご苦労があったと伺ったが、登録団体が25ということで、市内の様々な団体が連携して一つのものを作り上げていったというのはすごいことと思う。
- ・担当課は大変だったがゆえに他団体との協力関係ができた。各団体が、担当課を何とか手伝わないとという意識、心地よい疲れだったと聞いている。事業自体は成功だったと考えている。(事務局)
- ・団体は5年後、10年後にまたやりたいと言っていたが、担当課の職員も団体の構成員も変わるので、ぜひ5年後には再開してほしい。
- ・汗をかいたかきがあった事業だったと思う。様々な団体が参加していて、他の団体の人がうらやむ事例だと思う。5年後期待したい。支援センターにがんばっていただいたというのも、センターの役割が果たされたと思います。(粉川委員)

【全体をとおして】

- ・協働により全ての課題を解決できるわけではない。市の課題の中のどのあたりをクリアにしていくのかを最初の段階で明確にしていくべきだと考える。
- 今後に生かせるように、担当課との調整の中で注視しながら行っていきたい。(事務局)
- ・同作古墳と木下まち育て塾の今後の事業展開は。
- 担当課(生涯学習課)が市の事業として団体と一緒に継続してやっていく。

(2) 令和元年度企画提案型協働事業実施要領(案)について

《事務局説明》

- ・今年度の素案をご意見いただいた点を修正したものである。年度表記は市として令和元年度で統一する。赤字が修正箇所である。6、7月に企画提案を募集し、秋に審査し、令和2年度に事業実施するものです。

《議長進行》

- ・意見を伺います。

《委員意見等》

- ・令和2年度に事業を実施することを表紙等に明記してほしい。(粉川委員長)

→改良します。(事務局)

- ・市が募集する指定テーマは何か出てきそうか、事務局から担当課への働きかけは。(粉川委員長)
- これから庁内に募集をかける。竹袋については担当課との十分な協議を重ねたい。担当課でこの事業をどうとらえているのかを考えて、テーマを上げるのか上げないのかの協議が必要だと事務局では認識している。(事務局)

- ・4ページの指定テーマはテーマを定めて募集をかけるのか。

→定めて募集をかけるが、まだ決まっていない。(事務局)

- ・自由提案型と指定テーマ型との違いはあるのか。

→担当課の考え方の違いです。協働事業3年で一定の成果が上がり、今後続けるため協働事業の枠を外して事業化してやっていこうと決めたのが生涯学習課。都市整備課は過去10年やってきて昨年終

わり、他にいないかどうか確認して、改めて都市整備課から提案したいという流れで募集した。市と市民団体がやるものが協働と事務局は認識している。協働事業という枠に当てはめてやるのか、枠を外して担当課が責任をもって事業化していくのか。担当課がどう事業を展開していくのかという意識が都市整備課は幾分弱いのかなと思う。担当課に意識づけを含めた協議をしていく必要があると考える。(事務局)

- ・本来調整池の管理は都市整備課の範疇ではなく、維持管理も難しいという考え方だったと思うが。→調整池の取扱い、位置づけが都市整備課ではっきりしていない。調整池という認識なのか一体的な整備(公園など)を含めた考え方にするのかが定まっていない。
- 市側がどうとらえるのか、担当課が予算要求しづらいのである種抜け穴のように指定テーマ型が利用されているということも、個人的には推進委員会をご信頼いただいて議会でも認めてもらっているが、本来であれば恒常的にやっていく事業は直接議会にチェックしてもらうのが望ましい。推進委員会は協働事業を新しく作り出していく、見えない地域課題を見つけて行政と市民がともに解決していく糸口であるので、今後、あり方については市で検討していただきたい。(粉川委員長)

### 3 その他

- ・特になし

### 4 その他(事務連絡等)

- ・次回の委員会予定について確認した。
- ・任期終了に伴い各委員から一言いただく。

以上

平成31年4月26日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和2年1月16日

会議録署名委員 粉川 一郎